

西南学院史資料センター2024年度企画展

西南学院の

女性宣教師たち

学院の礎を築いた女性たち

 西南学院



## 開催概要

1916年に米国南部バプテスト派の宣教師によって創立された西南学院は、創立以来多くの宣教師の働きに支えられてきた。しかし、2004年を最後に学院に宣教師が不在となった。その背景には、米国南部バプテスト連盟の信仰が根本主義（ファンダメンタリズム）へ舵を切ったことが挙げられる。同連盟の信仰宣言の改訂は、「女性は牧師にはなれない」、「妻は夫に従うべき」など根本主義の極端な聖書解釈の影響を色濃く反映したものであり、宣教師たちはこの信仰宣言に賛同する署名を拒み、その職を辞すことになった。

西南学院の発展は女性宣教師の献身とともにあった。この展覧会では西南学院を支えた女性宣教師の事績に光を当て、今日まで継承される女性宣教師たちの働きを資料とともに振り返る。

主催 学校法人西南学院

会場 西南学院百年館（松緑館）1階企画展示室

会期 2024年3月1日（金）～12月20日（金）

### 凡例

- ・本冊子は、2024年度西南学院史資料センター企画展「西南学院の女性宣教師たち—学院の礎を築いた女性たち」〔会期:2024年3月1日（金）～12月20日（金）〕の開催にあたり、作成したものである。
- ・本冊子の編集は宮川由衣（西南学院史資料センターアーキビスト）がおこなった。編集補助には、原田仰（西南学院史資料センター臨時職員）があたった。
- ・本冊子の無断転載を禁じる。

表紙写真：学院創立35周年に際し再来日したモード B. ドージャー。  
児童教育科（鳥飼校舎）での歓迎式（1951年）

## 第1章

### 学院草創期の 女性宣教師たち

日本におけるバプテストの伝道の開始は、1860年のアメリカバプテスト自由伝道協会から派遣されたジョナサン・ゴープル宣教師夫妻の神奈川到着にさかのぼる。南部バプテストは、1859年にジョン Q. A. ローラーとその妻サラを最初の日本派遣宣教師として任命するが、海難事故により日本に到着することはなかった。次の宣教師派遣は1889年のジャック A. ブランソンと妻ソフィア、ジョン W. マッコラムと妻ドルラシラの任命まで待たねばならなかった。

1906年にチャールズ K. ドージャー、ジョン H. ロウ、ジョージ W. ボールデンの3人の宣教師は、その妻モード、マーガレット、マギーを伴って日本に到着し、福岡で新任宣教師として歩み始める。当時宣教師の妻は「補助宣教師」と位置づけられ、その働きを限定されていた。こうしたなか、女性たちの働きにより幼児教育の礎が築かれる。1916年にドージャーが男子中学校として西南学院を創立すると、女性の宣教師たちが教師として招かれ、学院草創期の発展を支えた。

## 舞鶴幼稚園の園長を務めた 女性宣教師たち



グレースH.ミルズ  
Grace Hughes Mills  
園長在任期間1913-16



モードB.ドージャー  
Maude Burke Dozier  
園長在任期間1916-17, 1926. 2-26. 9



キャリーH.チャイルズ  
Carrie Hooker Chiles  
園長在任期間1917-20



サラF.フルジュム  
Sarah Frances Fulghum  
園長在任期間1920-2



マギーA.L.ボールドン  
Margaret Alice Lee Bouldin  
園長在任期間1926-33

当時、現在とは違い、宣教師の妻は「補助宣教師 (assistant missionary)」と位置づけられ、伝道活動の中心的な役割を担う夫を支え、家事を切り盛りすることに、その働きを限定されていた。また、伝道対象も女性に限定されていた。そこで彼女たちは、1911年に開校した福岡バプテスト夜学校が使用していない屋間を利用して、西洋料理や英語の講習会を行った。宣教の一環として週2回開かれた講習会には40～50人の女性が参加した。そのなかで女性宣教師たちは、新しい社会にふさわしいキリスト教による幼児教育への強い期待があることを知り、それが舞鶴幼稚園の創設へとつながっていく。

バプテスト宣教団は、福岡市近郊の筑紫郡千代町（現在の博多区千代）での伝道活動、日曜学校を開始するにあたり、1911年に幼稚園を開校した。その責任者となったのがグレースH.ミルズであった。幼稚園には16人の園児が集まり、女性のための集会も開かれ、出席者も増えていった。1913年の前半までこの幼稚園は続けられたが、資金不足のため西公園下に移転し、これが舞鶴幼稚園設立の基礎となった。

ミルズを中心とした女性宣教師たちは、ミッションボードの支援のもと、幼稚園設立のための組織化を進め、1913年11月6日に福岡県に舞鶴幼稚園の設立認可申請書を提出した。舞鶴幼稚園では、今日まで、申請書を提出した日を公式の創立記念日としており、1916年創立の西南学院より3年早い創立となっている。

初代園長には申請書の設立名義人となっていたミルズが就任し、開設当初は、園長ミルズその他、3人の日本人保育者が17人の園児の保育に当たった。1916年、ミルズは夫の長崎への転任に伴い福岡を去ることになり、園長職は創設と運営に初期から参加していたモードに引き継がれた。

創設初期約20年の歴代園長たちは全て女性宣教師であった。第3代園長のチャイルズは米国で幼児教育の専門教育を受け、日本において幼児教育を推進するために派遣された最初の独身女性宣教師であった。また、第4代園長のフルジュムは、ソプラノの音楽家でもあり、西南学院のグリーククラブの生みの親となるなど音楽的な影響も与えた。

## 中学部・高等学部の教員として 学院を支えた女性宣教師たち



ナオミE.シュェル  
Naomi Elizabeth Schell  
学院在職期間1917-22



F.コンラッド  
Florence Conrad  
学院在職期間1921-29



E.E.ベーカー  
Effie Evelene Baker  
学院在職期間1921-32



E.T.ワトキンス  
Elizabeth Taylor Watkins  
学院在職期間1929-41



A.グレイヴス  
Alma O'Norean Graves  
学院在職期間1938-40, 1947-76

西南学院は1916年4月に生徒104人の男子中学校として発足した。1918年1月に学院は大町から現在の西新町へ移転し、1921年3月には赤レンガ本館（現・大学博物館）が完成する。1920年5月には中学校校地の西隣りに高等学部の用地として土地を購入し、1921年4月に高等学部が開校し、53人（文科16人、商科37人）が入学した。そこでは女性の宣教師が教員として活躍した。高等学部では文科だけでなく、商科でも英語教育が重視され、これが「語学の西南」と言われる所以となった。

ナオミE.シュェルは1917年から5年間、コンラッドは1921年から8年間、学院で教えた。1921年から32年まで学院で音楽、英語、聖書を教えたE.E.ベーカーは水町義夫（1885-1967、後の第4代院長）作詞の校歌を英訳した。1929年にはエリザベスT.ワトキンスが、そして1938年には戦後も長きにわたって大学の教員を務めるアルマO.グレイヴスが着任し、日米開戦後にやむなく帰国するまで学院を支えた。



中学部で教壇に立つシュェル 1920年頃



ベーカー（前列右から2番目）とワトキンス（同3番目）と  
中学部生徒たち 1930年頃



高等学部の教員たち。前列左端にコンラッド、  
左から2番目にベーカー、3番目にモード 1925年

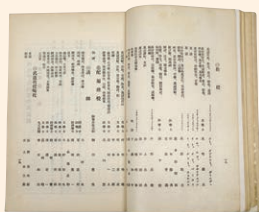


ベーカーと高等学部生徒たち 1931年

## 『西南学院一覧』

1931年 / 西南学院史資料センター所蔵

学院の沿革や学生生活に関わる規則を記した『西南学院一覧』には中学部、高等学部それぞれの教職員が記載されている。1931年の高等学部教授一覧および中学部教職員一覧に女性の宣教師パーカー、ワトキンスの名が見られる。ともに修士号をもつ英語教員であった。



## 高等学部の英語テキスト

1917年 / 西南学院史資料センター所蔵

女性の宣教師たちも教壇に立った高等学部の英語の授業で使用されていたテキスト（浅田榮次『浅田ブラクチャルリーダー』第5巻、文會堂書店・生文館発行、1917年）。本書の著者である浅田榮次は、帝国大学理科大学在学中にキリスト教への信仰を深め、1888年に渡米した。1893年の帰国後は、青山学院、そして東京外国語大学の前身である東京外国語学校で教鞭をとり、日本における英語教育の基礎を築いた。

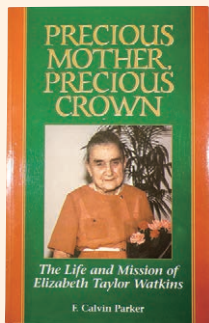


## E.T. ワトキンス伝記

(F. Calvin Parker, *Precious Mother, Precious Crown: The Life and Mission of Elizabeth Taylor Watkins*, 1997)

1997年 / 西南学院史資料センター所蔵

本学神学部元教授のF. C. パーカーによるワトキンスの伝記。1900年に米国のサウスカロライナ州で生まれたワトキンスは、学士号、修士号および看護師の資格を取得したのち、1929年、29歳の時に単身来日し、学院の中学部、高等学部で英語を教えた。日米開戦により1941年にやむなく帰米したが、その間もアリゾナ州の日本人収容所の病院などで日本人の結核患者のために奉仕した。戦後再来日し、西南女学院で英語の教師をしつつ、戸畑や下関などで社会事業に従事した。定年での帰米に際し、1970年に日本政府より勲五等宝冠章を授与された。



## 第2章

### 学院の発展と 女性宣教師たち

ドージャーが1933年に54歳の若さで急死した後も、妻モードは福岡にとどまり、女子教育と幼児教育に尽力し、「マザー・ドージャー」と慕われた。モードは1940年に本学人間科学部児童教育学科の前身である西南保姆学院を設立した。

戦争によって疲弊していた学院の復興・再建の大きな原動力となったのが、宣教師たちの貢献であった。女性の宣教師たちも英語教育、バイブルクラス、そしてクラブ活動を通じて学生と交流しながら、学院の発展に尽力した。

ミッションボードの日本への戦後の宣教活動は、モードの息子エドウィン B. ドージャーによって再開される。学院はエドウィンを通して、教授陣の充実のため、米国に有能な人材の派遣を要請していたところ、1947年7月に、その第一陣としてグレーヴスとタッカー・キャラウェイの2人の宣教師が着任することになった。グレーヴスは1938年から40年まで学院で教壇に立ったこともあり、戦後いち早く来日し、1976年までの長きにわたって大学文学部で教え、E. S. S. でシェイクスピア英語劇の指導に情熱を傾けた。

## M.B.ドージャー

女子教育と幼児教育に尽力し、「マザー・ドージャー」と慕われた



学院創立35周年に際し再来日したモード B.ドージャー  
児童教育科(鳥飼校舎)での歓迎式  
1951年



西南保母学院第1回入学式  
後列中央がモード  
1940年



西日本新聞社から  
第20回西日本文化賞を贈られたモード  
1961年

1916年に舞鶴幼稚園の初代園長ミルズが宣教師の夫の長崎への転任に伴い福岡を去ることになり、園長職は創設と運営に初期から参加していたモードに引き継がれた。ドージャーが1933年に54歳の若さで急死した後も、モードは福岡にとどまり、幼児教育のために尽力する。モードは常に保育士養成機関の設立に心を向け、キリストに従って生きる保育士を養成することが宣教師の一つの務めであると考えていた。そして、北九州小倉の西南女学院で彼女の理念を具体化しようとする。1939年にその考えは西南女学院の理事会で承認され、1940年に聖書科と児童教育科の2学科からなる女子の専門教育の学校を設立することが決まった。しかし、戦時下に米国宣教師が北九州一帯を見渡せる小倉の高台に新たに校舎を建設することは、国防上の理由から承認されなかった。頓挫したモードの構想は、福岡の地で実を結ぶ。1940年4月の開設を目指して鳥飼の地に校舎建設敷地を確保し、名称を「西南保母学院」として設立を申請し、1940年4月5日に認可され、同4月11日に第1回入学式が行われた。

戦時下、日米関係の悪化により、在日の米国人宣教師の引き揚げが始まり、モードは息子のエドウィン一家とともに1941年に帰米し、ハワイで日系人のために働いた。戦争が終わる前に、モードは宣教師としての引退を迎えるが、戦後、1951年に再来日する。1961年11月には、女子教育と幼児教育に対する長年の貢献が認められ、西日本新聞社から第20回西日本文化賞を贈られた。また、1966年には勲五等に叙せられ、宝冠章を授与された。女性宣教師として、モードが献身的にその発展を支えた女子教育と幼児教育は、今日まで西南学院で受け継がれている。

## A.グレイヴス

「語学の西南」の立役者となった女性宣教師



グレイヴスと女子学生たち



E. S. S. の学生とグレイヴス(後列左から5番目)  
1958年



E. S. S. 英語劇(ヴェニスの商人)  
1974年

約40年の長きにわたり学院の英語教育のために尽力したA.グレイヴスは、「語学の西南」に多大な貢献を果たした。

米国南部のルイジアナ州で生まれたグレイヴスは、大学で英語の古典を専攻し、1936年、29歳の時に米国南部バプテスト連盟の独自の宣教師として初めて来日した。2年間の日本語学習の後、1938年に学院の高等学部教授として着任し、1923年に発足したE. S. S.の顧問となり、専門であったシェイクスピアの作品を取り上げて熱心に指導した。戦時中の一時帰国を経て、戦後間もなく再来日し、1949年の新制大学の開設後は本格的に英語劇の指導に取り組み、1950年頃から毎年のようにシェイクスピアの作品が上演されるようになった。『ヴェニスの商人』、『マクベス』、『オセロ』など年1回の公演を重ね、グレイヴスが1976年に定年退職で学院を離れるまで、通算25回のシェイクスピアの英語劇が行われた。グレイヴスは、英語の発音の指導に加え、演出から大道具、小道具に至るまで目を配った。

グレイヴスは日本語が堪能であったが、学内では英語で通じたといい、英語で話しかけられたことは、当時の学生の思い出話によく登場する。1949年には県内の高校生を対象に英語暗唱大会として(その後対象を大学生へ変更)、E. S. S. 主催のギャロット杯争奪英語弁論大会を始めた。

校歌とともに歌われる、カレッジソング「Ah, Seinan!」と「She Wants Brave, Noble Men」は、1949年にグリークラブの要請を受けてグレイヴスが作詞したものである。グレイヴスは詩の方面にも才能を発揮し、多くの詩を書き残した。また、学外においても生け花を愛し、生け花を通して国際交流を深めることを目的とする「生け花インターナショナル」の福岡支部を立ち上げ、日本文化に興味を持つ基地内のアメリカ人将校夫人や宣教師夫人などに広めた。

## モード B. ドージャー愛用の聖書

西南学院史資料センター所蔵

モードが所有していた日本語聖書。モードの蔵書印のほか、夫チャールズK. ドージャーの直筆サインが見られることから、ドージャーが使用していたものをモードが受け継いだ可能性もある。聖書には書込みや下線が残っている。



## 児童教育学科のつるべ

西南学院史資料センター所蔵

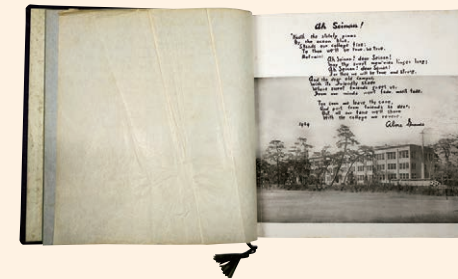
本学人間科学部児童教育学科の前身であり、1940年にモードが開設した西南保姆学院は、戦時中に西南保育専攻学校と名称を変更した。1946年の第5回卒業式から「まことの水脈にふれて生命の水を汲むものとならん」との精神を受け継ぎ、譲り渡そうと「つるべ渡し」を卒業生と在校生の間で行うようになった。そこでは毎年卒業礼拝の際に、同学科の象徴として、「つるべ」に卒業年次のクラスカラーのリボンをつけ、卒業する学生が在校生に手渡す。



## A. グレーヴス作詞の「Ah, Seinan！」歌詞

1949年 / 西南学院史資料センター所蔵

1949年にグリークラブからの依頼で作詞された「Ah, Seinan！」を収録した1957年の卒業アルバムにグレーヴスの直筆の歌詞が掲載されている。「美と誠実」と題されたグレーヴスの寄稿文（年代不詳）によれば、「美と誠実」は幼年時代から、グレーヴスの生活を導く二つの根本であったといい、「Ah, Seinan！」の歌詞の簡単な言葉の中に、「美と誠実」の根本方針があらわされているという。



## ギャロット杯英語弁論大会の優勝カップ

1950年 / 西南学院史資料センター所蔵

グレーヴスによって始められたE. S. S. 主催のギャロット杯争奪英語弁論大会の優勝カップ。本大会は、1949年に県内の高校生のための英語暗唱大会として始めたが、当時、大学生のための英語暗唱大会が少なかったことから、翌年から対象を高校生から大学生へ変更し、第1回と数えなおして開催した。



## 第3章

### 女性宣教師たちの現在地

2000年、米国南部バプテスト連盟はバプテストの信仰と使信（Baptist Faith and Message）と呼ばれる信仰宣言（以下「信仰宣言」）を改訂した。その内容は、「女性は牧師にはなれない」、「妻は夫に従うべき」など根本主義の極端な聖書解釈の影響を色濃く反映したものであった。2002年、同連盟は、この信仰宣言に賛同する署名を各宣教師に強要したが、西南学院で働く宣教師および福岡市在住の宣教師全員がこの署名を拒否した。署名を拒むことは国際宣教局（International Mission Board）からの解雇を意味した。学院は所属していた5人の宣教師のうち3人を専任教員として採用した。これによって1916年の創立以来、79名に上る宣教師によって連綿と続けられてきた教育活動と伝道活動は終止符を打ち、学院から宣教師が姿を消した。専任教師として採用された宣教師のうち、K. J. シャフナーは2014年に本学最初の女性の学長となる。また、リディア・ハンキンスは学院の専任宗教主事となり、チャペルをはじめとする本学のキリスト教活動を支えた。

米国南部バプテスト連盟の政策の変更に伴い、2004年以降、宣教師が学院に任命・派遣される可能性がほとんどなくなった。同年4月、元院長L. K. シートにより、米国ミズーリ州リバティーを拠点として、短期宣教師の派遣を目的とした「西南学院4-L財団」が設立され、大学バイブルクラスの指導者、中高の非常勤講師などの働きを担っている。

### 南部バプテスト連盟の変質

米国南部バプテストは、1920年代にプロテスタント教会の間で起こったダーウィンの「進化論」をめぐる論争をきっかけとして、1925年に科学に対する聖書の権威・優位性を信じる信仰的立場を「信仰宣言」によって表明した。これは南部バプテストが共有する信仰理解を確認するものであり、教会や個人の信仰に対して拘束力をもつものではなかったが、1960年代に旧約聖書の創世記に関する解釈をめぐって論争が起こり、聖書の一字一句に誤りがないとする主張が強まり、根本主義が主流となった。1979年に根本主義者の同連盟の理事長が選出されると、「信仰宣言」は信条化された。それに伴い、根本主義的でないと判断された神学校教員や連盟職員が辞任させられ、代わって根本主義派の意図に賛同する者たちが採用されるようになる。根本主義化の波は国際宣教局にも及んだ。

これまで、宣教師の伝道活動は多様であり、宣教師たちは教会や学校、病院などの施設で奉仕した。しかし、国際宣教局は開拓伝道に専念すべきであると方針転換し、学校や病院に宣教師を派遣しないことを明確にした。

### 信仰宣言の改訂と宣教師の辞任

2000年に米国南部バプテスト連盟は信仰宣言を改訂する。その内容は、「信仰の中核は聖書が証するイエス・キリストよりも一字一句誤りのない聖書の記述そのものである」、「女性は牧師にはなれない」、「妻は夫に従うべき」などであった。また、国際宣教局によるトップダウンの支配体制が強化された。2002年には、この信仰宣言に賛同する署名を各宣教師に強要した。西南学院で働く宣教師および福岡市在住の宣教師全員がこの署名を拒否した。署名を拒むことは国際宣教局からの解雇を意味し、2004年に学院には宣教師が不在となった。2008年には学院のために奉仕した宣教師たちを記念する碑が設置された。

学院は所属していた5人の宣教師のうち、G. W. バークレー、D. A. ジョンソン、K. J. シャフナーの3人を専任教員として採用する。シャフナーは2014年に本学最初の女性の学長となる。一方、H. C. ジョンソンおよびL. K. シートは、宣教団の定年延長が認められず、退職させられた。また、リディア・ハンキンスは学院の専任宗教主事となり、チャペルをはじめとする本学のキリスト教活動を支えた。



宣教師記念碑  
旧西南学院本館(現・大学博物館)西側



宣教師記念碑を囲んで記念撮影を行う最後の宣教師  
左からシート、ハンキンス夫妻、パークレー、  
ジョンソン夫妻、シャフナー 2008年

## 西南学院4-L財団の設立

米国南部バプテスト連盟の政策の変更に伴い、2004年以降、宣教師が学院に任命・派遣される可能性がほとんどなくなった。同年4月、元院長L. K. シートは、米国ミズーリ州リバティーを拠点として、短期宣教師の派遣を目的とした「西南学院4-L財団」を設立した。「4-L」はシートが院長時代に学院の建学の精神「西南よ、キリストに忠実なれ」を説明するにあたってよく用いた4つの英単語、すなわちLife（生命）、Love（聖愛）、Light（光明）、Liberty（自由）の頭文字に由来する。本財団は、学院の使命達成を援助することを目的とし、日本の法律の認定を受けた非営利教育事業である。

4-L財団は当初、大学に教員を派遣しようと意図したが、設立後4年ほどでは実現することはできず、2009年に中学校・高等学校の英語講師と学院の宗教主事の助手としてジョナサンR. ランダースを最初の短期宣教師として派遣した。同財団は、大学バイブルクラスの指導者、中高の非常勤講師などの働きを担っている。

## 『キリスト新聞』に掲載されたハンキンス夫妻の公的書簡

2003年7月19日 / 西南学院史資料センター所蔵

ハンキンス夫妻は2000年に発表された米国南部バプテスト連盟（SBC）の信仰宣言への賛同の署名を拒否したため宣教師としての職を解かれた。この公的書簡にはこの出来事を受けてのハンキンス夫妻の思いと、米国南部バプテスト連盟への批判が記されている。そこでは改訂された宣言が家庭における妻と夫の性役割を固定化し、性差別による伝道の働きを制限し、「女性の人生に働くキリストの解放の力にとって、世代的逆行」となっていることを指摘している。また、それまでの過去数年間にわたって国際宣教局（IBM）が「宣教師派遣機関」ではなく、宣教師たちの「雇用主」であることを繰り返し強調してきたという組織の在り方の変容についても触れられている。



## 日本バプテスト連盟宣教部編

### 『ひらかれる教会 ― 女性の牧師の招聘にむけて』

2018年 / 西南学院史資料センター所蔵

日本バプテスト連盟では、2011年から「和解のつとめに仕える」ことを主題とし、その中で、「女性の牧師を招聘する教会を励ます」ことが重要課題の一つとして挙げられた。神学校に進む女性の献身者が増えている一方で、神学校を卒業しても女性の献身者が招聘されることは少ない状況が続いている。本書は、こうした状況を作り出しているのが教会の中にある意識、すなわち、2000年の米国南部バプテスト連盟の信仰宣言に象徴されるような、牧師は男性といった固定化された性役割や特定の聖書理解に基づく性差別であると分析している。本書には女性牧師の実状や課題をめぐる論考のほか、「米国南部バプテスト連盟2000年信仰宣言抜粋」や「日本バプテスト連盟常任理事会による米国南部バプテスト連盟への書簡」といった資料が収録されている。

